

# 再発性上顎洞病変への 対孔作成によるアプローチ



上越総合病院  
耳鼻咽喉科  
五十嵐良和

## はじめに

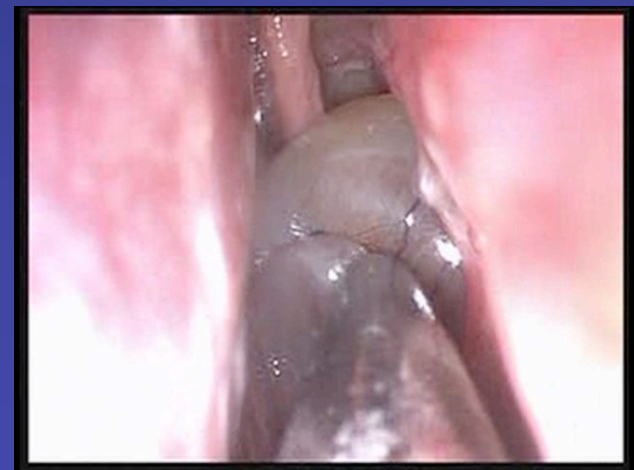
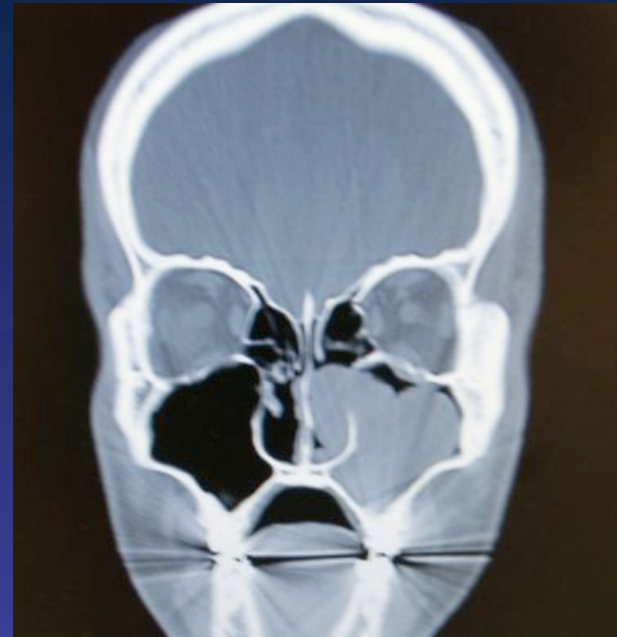
- ESS(内視鏡下副鼻腔手術)では、上顎洞前下部が死角となり病変を取りきれない。
- このため上顎洞に残存したポリープやパピローマを根治させるため、Luc法を選択せざるを得ない場合がある。
- 可能な限りLuc法を避けたいとの思いから、下鼻道対孔を作成し上顎洞処置を追加することを試みた。

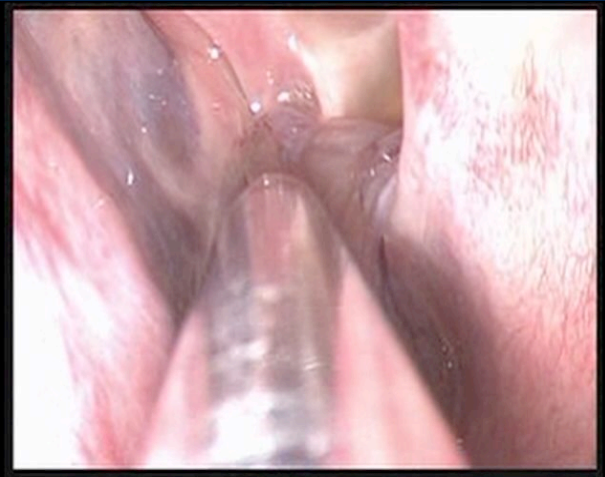
# 29歳男性 上顎洞ポリープ再発例

平成16年8月  
左ESS 両側コンコトミー施行  
平成16年11月  
ポリープの再発傾向を認め、  
外来手術にて切除

その後、新潟へ転勤、ポリープが再発し、受診先の病院よりLuc法を薦められた。

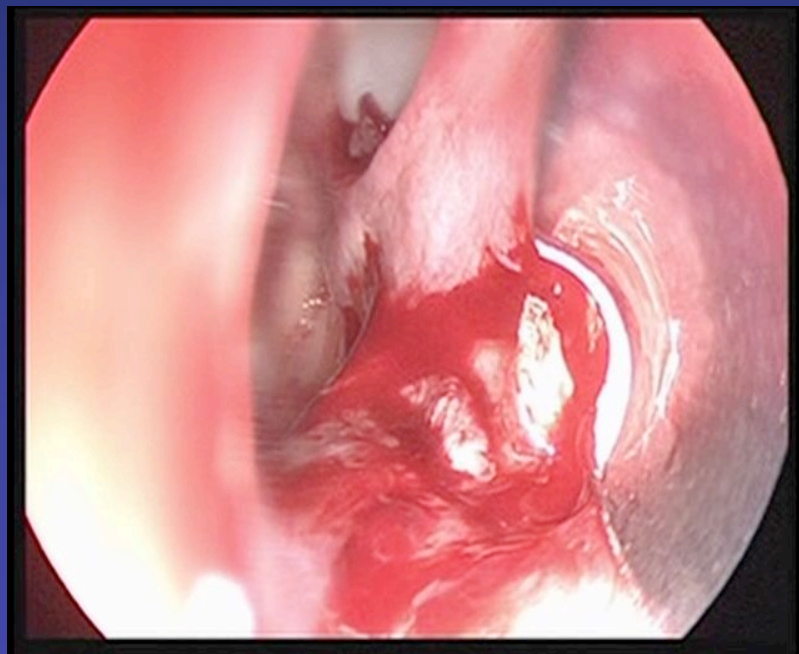
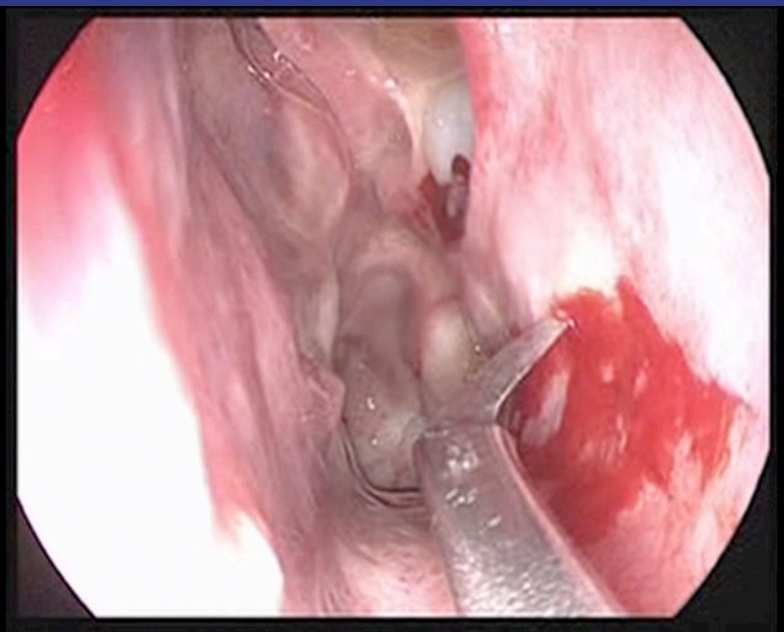
何とか鼻内手術で対応して欲しいと希望して、当院を再診。





1、自然孔のポリープを  
シェーバで除去

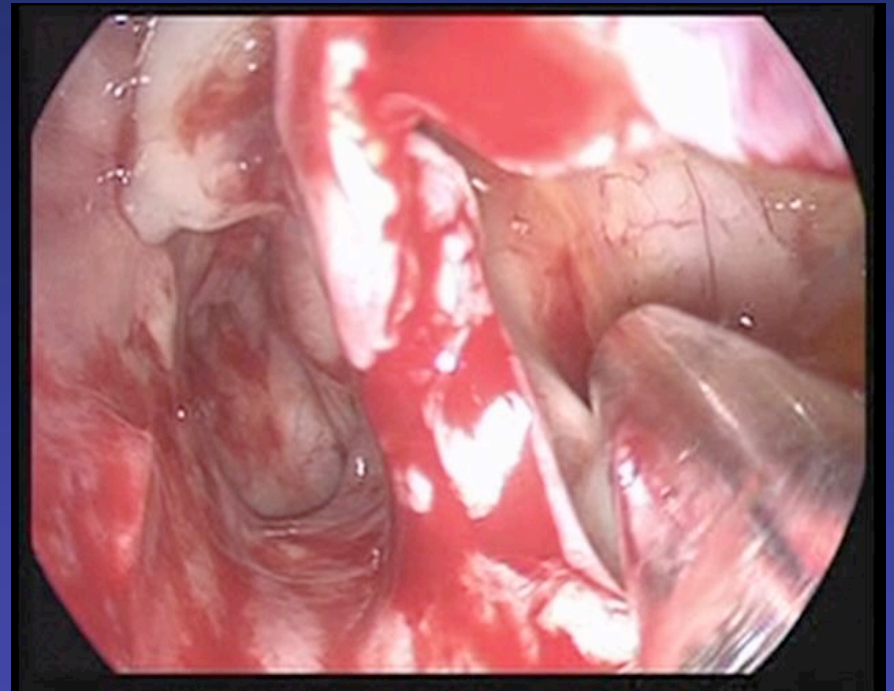
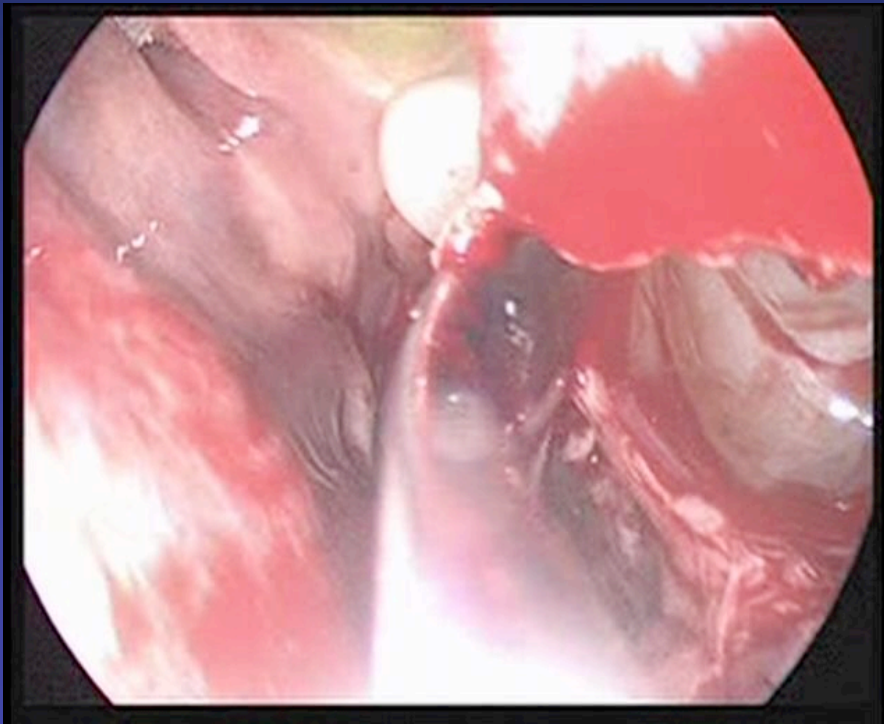
2、鎌状刀と曲がりノミにて  
対孔作成



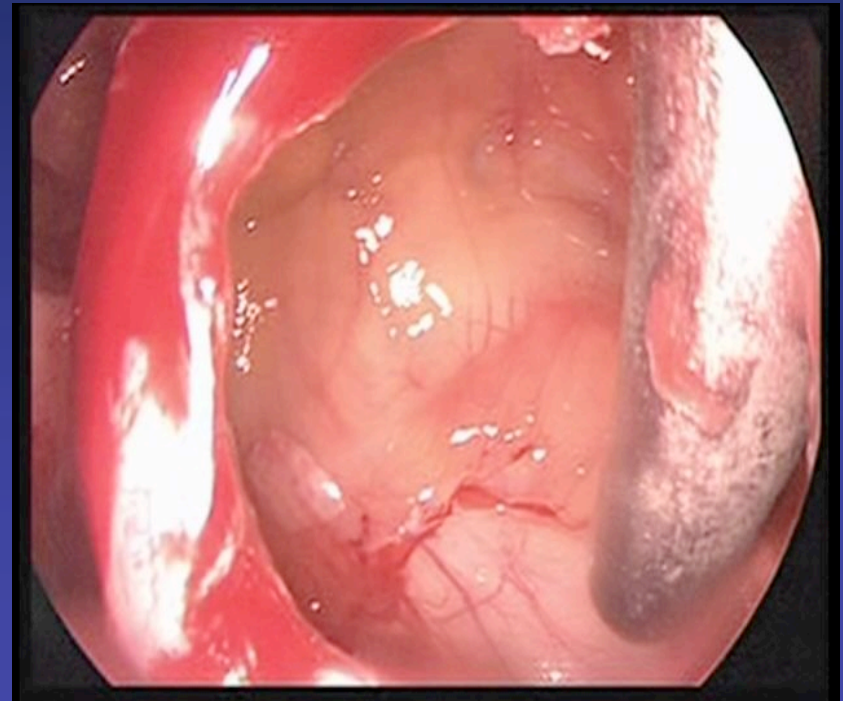
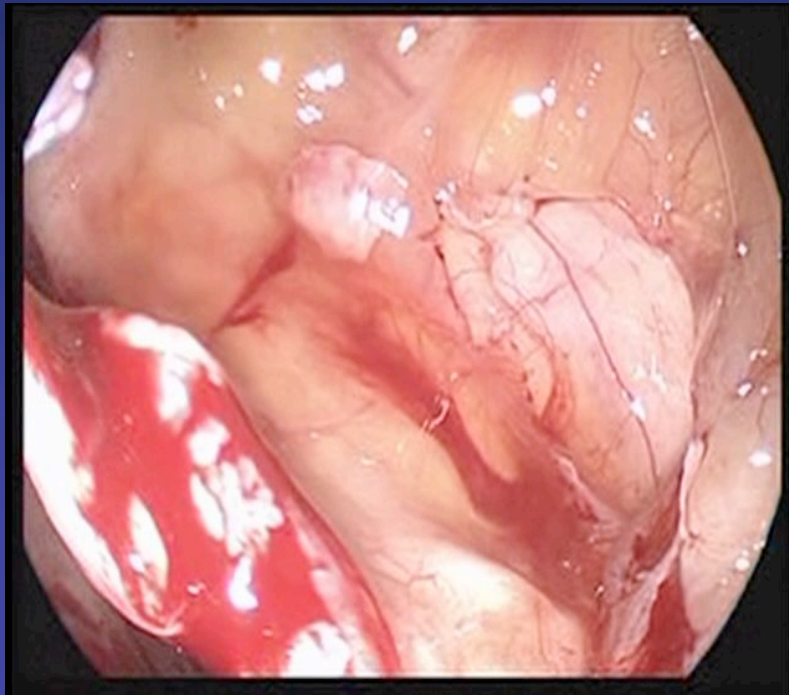


3、鉗子にて対孔を拡大

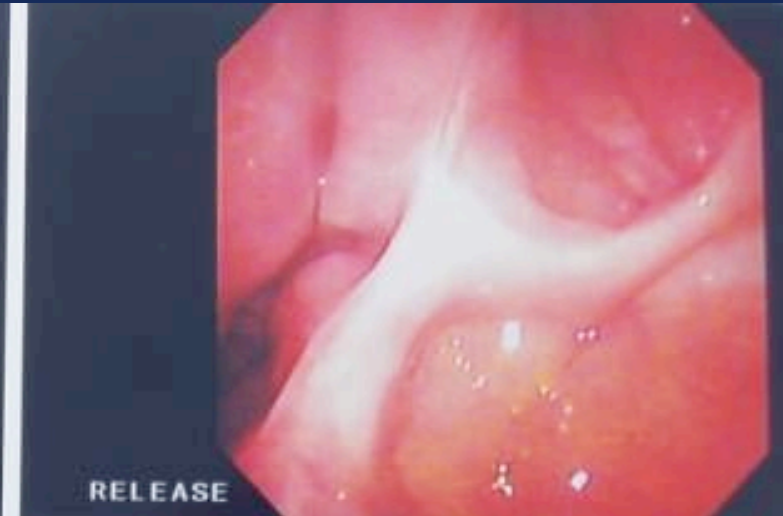
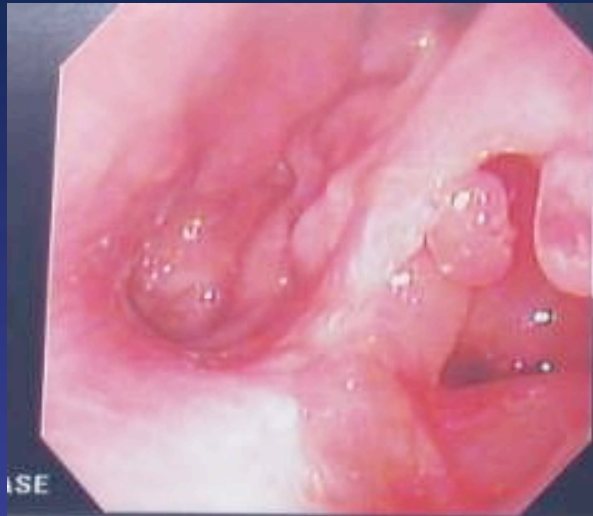
4、シェーバーにて上顎洞ポリープを除去



# 手術終了時の上顎洞内部

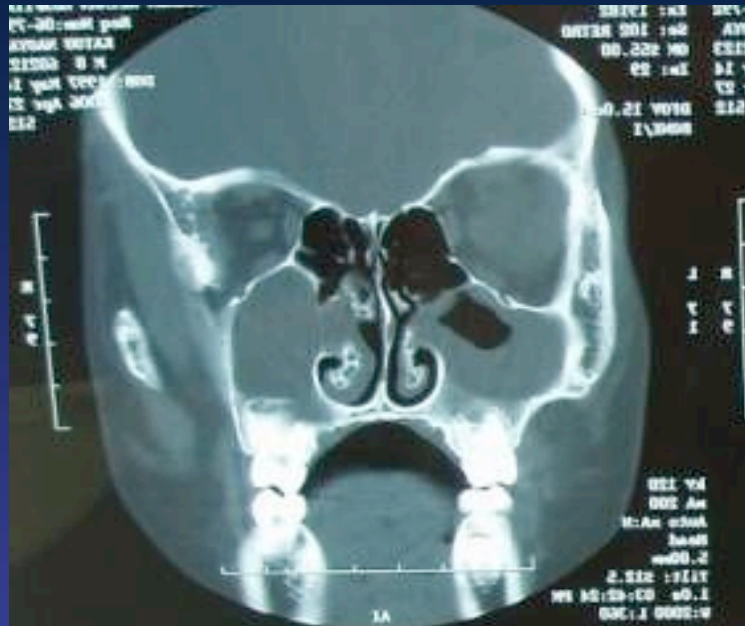


術後、上顎粘膜腫脹を認めるが、ステロイド点鼻とオノンにて4Wごとに経過観察中



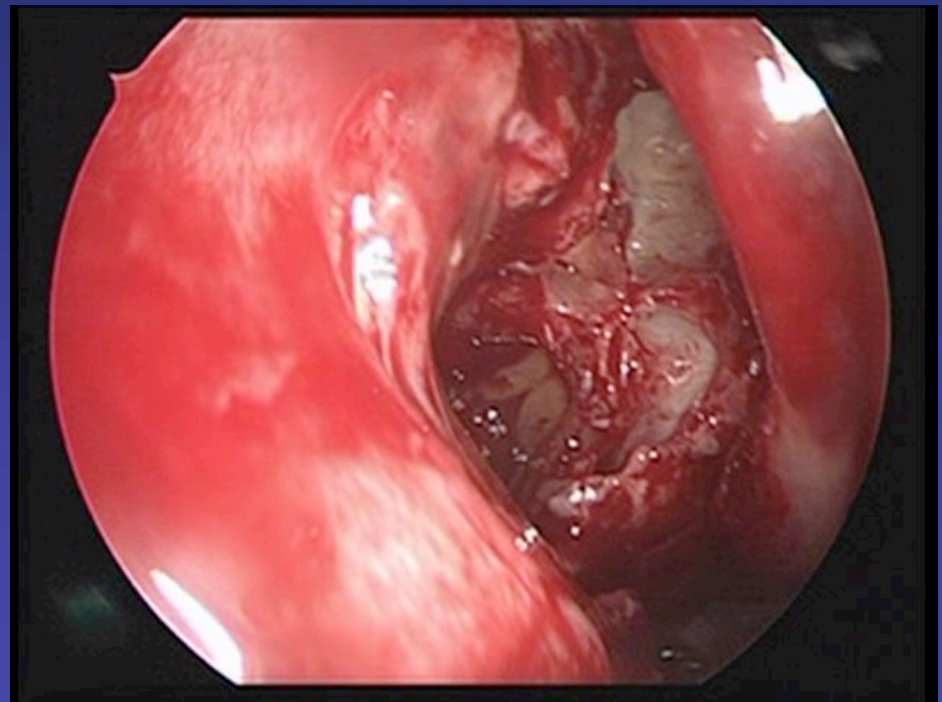


# 12歳男性 上顎洞ポリープ新鮮例





# まず自然孔周囲を開放



次に対孔を作成し、上顎洞内の浮腫  
病変をシェーバーにて清掃



術後、対孔は自然閉鎖

# まとめ

- ESSに対孔経由の上顎洞アプローチを追加することにより、Luc法の選択機会を減らせる可能性がある
- 対孔を作成してもなお、届かない部位があり、この対処が課題
- 対策として、下口唇裏から上顎洞前壁下部にシェーバー用の小さな穴を作成することもよいかもしれない